

# Media Grove

21世紀におけるインディーズ雑誌

## 創刊準備号

楽しむための音知識  
君のサウンドは正しいか？

企画・投稿作品掲載

*Independent Works*

インディーズ情報掲示板

**inde-X**

# このスペース、使ってください

使い方は、あなた次第です。

ご相談・ご質問は・・・

広告室 E-mail: ad@r7.1r.net

\*ホームページへはこの広告をクリックしてください。

## 特長 1: 大きなスペース

最大で「A4サイズ」の広告スペースが自由にお使いいただけます。インターネットの広告にありがちな、文字の数や大きさ・種類に制限などはありません。あなたのイメージを最大限に生かした広告をそのままの形で読者に伝えることができるでしょう。

297 mm

## 特長 2: 白黒 カラー

使う色の数や種類に制限はありません。メールでは文字で組み合わせた白黒広告しか表現できませんでした。また、インターネットではブラウザにより色数に制限が生じます。適した色を適した場所に使うことによって、読者の視覚にうったえる広告ができるはずです。

148 mm

## 特長 3: 選べる価格

A4サイズの1,500円程度(\*)を最高に、A4二ツ折サイズで800円程度、A4四ツ折サイズで400円程度と様々な価格をご用意いたしております。年間契約では1ヶ月分お得です。さらに、インディーズ系の広告には特別割引をいたします。

\*価格は変動いたします。前号発行部数×0.5円が目安です。

74 mm

210 mm

# PDFの正しい読み方

目的の内容への移動には・・・  
「しおりやリンクを使おう！」

まず、あなたが見たい内容を探さなければなりません。次に、見たいページが見つかったらどつするの。これらを簡単にするテクニックを紹介します。

「しおり」とは、文書内の対応する部分に移動するための見出しです。「パレットの表



パレットの表示 / 非表示

示 / 非表示」ボタンで「しおり」を表示してください。目的の見出しをクリックすると、対応するページへ移動します。

また、目次や文章中のキーワードはリンクになっている場合があります。リンクされている単語の場合は、マウスカーソルが絵のようになります。その単語をクリックすると関連する文章へ移動します。ときには、関連するホームページへのリンクにもなっていることもあります。この場合は、「ファイル 環境設定 ≡」リンク・・・」においてWebブラウザを設定している必要があります。



では、実際に試して見ましょう。次の文字をクリックしてみてください。「URL」の方は、インターネットへの接続と設定が必要です。

表紙へリンク

<http://r7.1r.net/>

ページを効率的に読むには・・・

「アーティクルを使おう！」

読みたいページが見つかりましたか？見つかったら、ページを読みやすくするテクニックを使って読んでみましょう。

「アーティクル」とは、文章を流れるように読むためのサポーターです。アーティクルが設定してあるところでは、マウスカーソルが絵のようになります。そこでクリックすると、文章の最初の部分を読みやすい表示倍率で表示されます。続きの部分を表示するには、マウスをクリックしてください。「[S]hift+クリックで戻ること



アーティクル

もできます。アーティクル表示を止めたい場合は、コマンドバーなどで表示倍率を変えてください。



アーティクルが 続くとき

尚、アーティクル表示中の表示倍率は、「ファイル 環境設定 一般・・・」の「描画領域のみを表示する場合の最大倍率」で変更できます。

実際に、このページもアーティクルを使用して作られています。利用して読んでみてください。設定を読みやすいように変更することも大切ですよ。

それでも読みにくい方へ・・・

「紙に印刷してみよう？」

当誌では、当PDF所持者本人による個人的な印刷を許可しております。

パソコンの画面ではどうしても読みにくい、またはこの記事はじっくり読みたいなどの場合には、印刷する方が良いでしょう。

印刷をする場合は、「コマンドバー」の「印刷」を押してください。



印刷

お手持ちのプリンターで印刷できます。用紙サイズにより自動的に拡大・縮小されて印刷されますが、文字の大きさ・読みやすさの点からA4サイズをお勧めいたします。

尚、個人的な印刷物を再配布・無断転載することは禁止しておりますので、ご注意ください。

友人や知人にも見せたい・・・

「再配布について」

再配布は、このPDFファイルで改変を行わないオリジナルの状態に限り自由に行うことができます。オリジナルがどうかは、メニューより「コマンド」または「ファイル」の「文書情報」一般・・・を開き、更新日時を正確確認ください。更新日時は、目次この後のページ(の)号数表記のそばに記載されています。

尚、個人的な印刷物を再配布・転載することは一切許可いたしておりません。したがって、当雑誌に似せた印刷物による著作権の侵害などを発見した場合は、直ちに法的な対処をとらせていただく場合があります。印刷物の掲載・転載の許可に関しては、お気軽にご相談下さい。

MediaGroove 編集部 [mg@r7.1r.net]

## コマンドバーの説明

### 一般的な移動の方法



最初へ 前へ 次へ 最後へ

### 表示倍率の変更方法



全体表示 幅最大 実物大

# Media Groove

創刊準備号

作成 1999/09/26 2:21:54

発行 1999/09/26 3:30

発行元 R7 project (mg@r7.1r.net)

(C) R7 project, 1999. 禁・無断転載

012 楽しむための音知識

## 君のサウンドは正しいか？

006 インディーズ系作品ギャラリー

## *Independent Works*

010 読者の投稿掲示板

**i**nde-x

013 創刊記念購読者プレゼントのお知らせ

003 PDFの正しい読み方

014 編集後記

Cover Photo: Australia Melbourne

Cover Design: 相沢 裕貴

表紙作品は、「Independence Works」で紹介されています。

「Media Groove」では、表紙デザイナーを募集しています。デザインされた方には、謝礼をお支払いいたします。次号の表紙をデザインしてみたい方、DTPに興味がある方など、edit@r7.1r.netまでご連絡下さい。

## AD INDEX

R7 project

このスペース使って見ませんか 002

投稿者募集 ----- 011

Media Groove ----- 009

「Media Groove」では、広告スペースを提供しております。広告料金などは、R7project 広告「このスペース使って見ませんか」やホームページ<http://r7.1r.net/MG/>の「広告室」に掲載されています。また、ご質問やご相談などは、ad@r7.1r.net へご連絡下さい。

# Independent Works

このコーナーでは、皆さんの作品を紹介しています。制作者の投稿や企画による掲載しており、掲載された方には掲載料として謝礼をお支払いいたしております。

小説・コミック・音楽・イラスト・映像など作品を掲載したい方は、是非ご連絡ください。

掲載希望・ご質問などは

Eメール: [edit@r7.1r.net](mailto:edit@r7.1r.net)

尚、郵送やFAXでも受付けております。メールにてお問い合わせください。

小説

「Over The Horizon」

R7 project

<http://r7.1r.net/R7/>

写真

「Media Groover」

相沢 裕貴

[yuuki@nte.biglobe.ne.jp](mailto:yuuki@nte.biglobe.ne.jp)

## 第一話 旅立ち

1

吹きすさむ風の中、羊飼いの少年アロンは広い草原に横になり、水平線に沈みゆく太陽を眺めていた。

これはいつからかアロンの日課になっていた。そして、いつものように空想に更ける。

あの水平線をもっと先に行けば、そこには世界の終端があるといわれている。アロンは未だ人の到達しえぬその地を思い浮かべてみた。

ある人はそこに黄金の都市があるとい

い、ある人は死後の世界があるとい、またある人は何にもないただの空虚があるだけだと言っ。

どれも幼い頃にアロンがよく聞かされたおとぎ話である。

だが、アロンにはどうしても納得できなかった。

「なんで、大人達はみんなそれを確かめもせずに生きていられるんだよ。どんな人だって、一度はあの水平線の向うを想像した事があるはずなのに、みんなそんな事どうでもいような顔して生きてやがる」

アロンは足下で草をはんでいる羊たちにつぶやいた。

もちろん、羊が答える訳がない。

「あーあ、お前達につきあつのも疲れたよ。よし、天気も良くなりそうだし、今夜こそ作戦決行だ！」

アロンはピョンと跳ね上がると、杖をとり首から下げた角笛を一吹きした。

羊はアロンの命令を受け入れ、ひとかたまりになってアロンとともに村への帰路についた。

村に帰ると、いつものように村人達の冷やかな視線が待っていた。

皆一様にちらりとアロンを見てはひそひそと小声で話はじめ。

アロンはもう慣れたつもりでいたが、やはり気持のいいものではない。

「ちっ、俺が何したっていつんだよ」

アロンの父の仕事は取税人である。村人から毎年一定の割合で税を集め、それを十萬都市ラヴェルナに収めている。

三年前からこの村にも税制が導入されたのだが、それまで税など治めたことのない人たちにとっては大変な変革である。

アロンの父は多くの村人から嫌われていた。

「なんで俺まで悪く言われなきゃなんないんだよ」

アロンは悪態をついて道端の小石を蹴った。小石はしばらく転がって道を外れ、一軒の家の前で大きく跳ね上がった。

ガチャン！

小石は窓ガラスに当たり大きなひびを作った。

「あちゃあ」

思わず顔を覆う。

家の中から主人の怒鳴り声があがる。「やばい。ほ、ほら、みんな逃げ！逃げる

ぞー！」

アロンは羊たちをせかして、その場から急いで立ち去った。

一部始終を見ていた村人たちのひそひそ声が妙に耳に残った。

「くそっ、くそっ……」

しばらくしてアロンと四十五頭の羊たちはブラットじいさんの家に着いた。

「ブラットじいさんー羊の放牧、終わったよー！」

アロンが呼びかけると、しばらくして中から返事があつた。

「いつものように柵の中に入れていってくれ、それが終わったら帰ってよいぞ」

「ああ、入れておくよ。でも今日はちょっと話があるんだ。いいかな？」

窓からブラットじいさんが顔を出した。

「話じゃとっ」

「ああ、ちょっといいかな」

「もちろんいいとも。ほれ、早く羊を柵の中に入れてなさい。わしはその間にお茶でも用意しておくから」

アロンは言われたとおりにし、井戸で顔と手を綺麗に洗ってからブラットじいさんの家に入った。

ブラットじいさんの家は薄暗く、いつものように薬草が何かの香りが漂っていた。

幼い頃のアロンはこの匂いが嫌いだったが、今ではこの慣れ親しんだ香りがどうにも心地良かった。

「おお、来たか来たか。ほれ、そこに座りなさい」

この村でアロンに優しくしてくれるのは、今ではこのブラットじいさんだけだ。

ブラットじいさんだけは、三年前にこの村に税制が導入されてアロンの父が取税人のするようになって、アロンに対する態度が変わらなかつた。

アロンはこの幼い頃からの友人を誰よりも信頼していた。

今度の計画もブラットじいさんを除いては、ほかの誰にも打ち明けるともりはない。

アロンは彼にはまだ少し大きな揺り椅子に腰掛け、入れたての紅茶を少しすすった。

「俺、家出しようと思つんだ。今日、そう今から」

「い、家出じゃとっどつしてまたそんな急に」

アロンの言葉は、ゆったりと余生を楽しむだけのこの老人を驚かせるのに十分だつた。

「別に急になって訳じゃないさ。前から考えていたことなんだ。今までこうして羊飼いをしておごずかいを買ってきたのはこのためだったのだ」

ブラットじいさんは言葉がなかつた。

「急にいなくなっちゃ、羊たちの面倒をみるやつがいなくなっちゃうけど、獵師のテッドのこの末っ子に頼めばいいと思つ。アルっていつんだ。まだガキだけど、頭のいい子だ。すぐに仕事は覚えてくれるぞ」

ぞー」

ブラットじいさんも、ようやく事の成り行きを理解したようで、不安そうな視線をアロンに送った。

「羊の世話などどうでもいいのじゃよ。それよりもアロン、どこへ行く気なんじゃ？ 父親から逃げようとしたって、結局、そんなに遠くに離れることはできんじやよ。」

「ここは島じゃ。島の反対側に行ったとしても、せいぜい三キロ程じゃ。すぐに連れ戻されることになる」

アロンは首を横に振った。

「あんな父親のところになんか、いれるもんか。俺は島を出て大陸に行こうと思つんだ。なんとか船に乗るくらいのお金はあつて……」

「じゃが、大陸に渡つてからはどうする？ お前はまだ十三じゃ。まだ若過ぎる。何かあてでもあるのか？」

アロンは少しのあいだ言葉に詰まつた。

「いや、ないけど……でも、家出する理由は親父が憎いからだけじゃないんだ。俺、世界の終端ってところをこの目で見てきたんだ。そこに何かあるのか……きつと、何かあるはずなんだ」

「せ、世界の終端じゃと……？」

「そつさ。俺がまだ小さかつた頃、ブラットじいさんはよく世界の終端について話してくれたじゃないか。俺は冒険に出る。そこできつと何かを見つけてみせる」

アロンは真直ぐにブラットじいさんを見る。

アロンの揺るぎない目を見てブラットじいさんはもはや諦めたようで、小さくため息をついた。

「本当に行つてしまつのか？」

「ああ、もつ決めたんだ」

アロンの目に涙が浮かんでるのを見て、ブラットじいさんはつつむいた。

「一つだけ言わせておくれ。わしにはおまえさんは自分自身を見誤っているように見える」

アロンは答えなかつた。

何を答えていいのか分からなかつたし、ブラットじいさんも答えを求めているふうでもなかつた。

「行つてくるのもいいじやろ。世界は広い。見えないものを見るためにはちやうどいい。じゃが、もう少しわしのそばにいておくれ。せめてその紅茶を飲みおわるまで。わしのかわいいアロンよ」

ブラットじいさんはアロンのそばにきて、その金色に輝く髪をなでた。

「俺のために泣いてくれる人はブラットじいさんだけだよ」

少年と老人は別れを惜しんで、小一時間程一緒に泣いた。



(C) 相沢 裕貴

これは、オーストラリアの友人の結婚祝に行った時、メルボルンの街角で撮った写真。

もともと、景観に興味があるのでいろいろと撮りまくっていたうちの一枚なのですが、なかなかよかったです。表紙に使ってしまいました。

(以下、編集長としての言葉)

こんな気楽な感じでいいので、是非「表紙デザイン」や「作品掲載」を行って戴けませんか？

もちろん、お手伝いをいただいた方には謝礼をお支払いいたします。

是非、ご連絡を。

「Independent Works」では、掲載する作品を募集しています。

小説・コミック・音楽・イラスト・映像など、あなたの作品をお寄せ下さい。

掲載された作人の制作者には、掲載料として謝礼をお支払いいたしております。

作品の掲載に関する企画も同時に募集しております。

掲載希望・ご質問などは[こちら](mailto:edit@r7.1r.net)へ・・・

E-mail: [edit@r7.1r.net](mailto:edit@r7.1r.net)

尚、郵送やFAXでも受付ております。メールにてお問い合わせください。

掲載された作品の著作権等の全ての権利は、制作者にあります。無断での転載・複製することを禁止いたします。

転載などのお問い合わせは、Media

Groove 編集部 [edit@r7.1r.net](mailto:edit@r7.1r.net) まで。



21世紀におけるインディーズ雑誌

# Media Groove

インディーズとは、企業などに依存しない  
独立して活動している人々のこと  
私たちはこの紙面を通して  
その方々を応援します

# inde-X

ここからのページは、創作活動を行っている人々、「インディーズ」による「インディーズ」のためのページです。

といつても、内容は皆さんの投稿によって成り立ちます。音楽・映画・小説・コミックなど創作活動についてだけでなく、いろいろと語ってしまってもOKというページにしたいです。投稿方法は、各コーナーの最後とページの後半の方で説明しています。是非とも投稿ヨロシクお願いいたします。

今回は創刊準備号ということもあって、なにも投稿がありません。何を投稿するのかもお伝えしてないので、ないのがあたり前ですが……。

とりあえず設置する各コーナーの説明をしたいと思います。とりあえずというのは、コーナー自体も皆さんの投稿で発展させていきたいなー、という願いがあからずです。

それでは、説明スタート！  
どのコーナーに投稿しようかを考えながら読んでね。

## このページの特徴

- 一、誰でも投稿可能。しかも、雑誌編集締切に間に合った投稿全てを掲載。掲載もれがありません。
- 二、このページ内は、文字検索が可能です。メニューから「編集 検索…」を選択し、検索したいキーワードを指定すれば、すぐに目的の項目を探せます。
- 三、連絡先や投稿先などにはリンクが張ってあるので、すぐにもメールで返事が可能。但し、環境設定が必要です。

詳しい設定方法は「PDFの読み方」を参照ください。

**Boshu-X**  
このコーナーの投稿先は  
reader@7.1r.net 「Boshu-X係」

このコーナーは、創作活動をこれからしたいという方たちのサポートページです。バンドのメンバー、映画の出演者・スタッフ、小説の挿絵を書ける人など募集といえるものならなんでもOK。「募集・X」では、そんな方との出会いをバックアップしていきます。

(サンプル)

VO募集！

………主な活動場所新宿

連絡 sample@……

**編集スタッフ募集** Mediagroove ではDTPに興味のある編集スタッフを募集しております。全てネットを使っているので自宅で作業可能です。

連絡先:edi@7.1r.net

サンプルはちょっと読みにくいですがごめんなさい。創刊号からは、ちゃんとしていますので。

このコーナーでは、「募集したい」という投稿をお待ちしております。

投稿は、最初に募集の種類(5文字以内)、次に募集内容の説明(種類と合わせて100文字以内)を書いてください。最後に連絡先メールアドレス、ホームページアドレスなどを必ず書いてください。

投稿先は「reader@7.1r.net」へ題名に「Boshu-X係」と書いてお送りください。FAX・郵便物では今のところ受け付けておりません。皆さんからの投稿をお待ちしております。

**Oshirase-X**  
このコーナーの投稿先は  
reader@7.1r.net 「Oshirase-X係」

このコーナーは、掲示板的な役目を果

たします。

ライブの開催や参加、作品の完成・配布・販売などの告知ならなんでもOK。ローカルな話題でも全然かまいません。

(サンプル)

**小説Over the Horizon 配布開始。** R7 Projectでは、ホームページにて自作小説を無料配布中。(内容)羊飼いの少年アロンは旅に出る。世界の終端を目指して……それは自分を探す旅でもあった。そして……いはての地でアロンが見たものは……  
URL: <http://r7.1r.net/R7/>

このコーナーでは、イベントや作品の広告などの「お知らせ」の投稿を募集しております。

投稿は、最初に告知の題名(15文字以内)、次に内容・アピールなどをお書きください(150文字以内)。イベントなどの場合は、開催場所や時間・連絡先を必ず明記してください。

投稿先は「[reader@r7.1r.net](mailto:reader@r7.1r.net)」へ題名に「Oshirase-X係」と書いてお送りください。FAX・郵便物では今のところ受け付けておりません。

皆さんからの投稿、お待ちしております。

# Market-X

このコーナーの投稿先は  
[reader@r7.1r.net](mailto:reader@r7.1r.net) 「Market-X係」

このコーナーは、いらなくなったツールや作品の売り買いを行うところです。いわば、フリーマーケットです。

同人誌の販売・曲の販売などの売りたい・買いたいというメッセージをお寄せ下さい。

(サンプル)

売りたい

**同人小説Over The Horizon 完成版。** R7 Project がホームページで公開していた第1話・第2話を含む全4話による完全版。いよいよアロンの旅も完結する。

価格: 500円(送料含む)  
E-mail: [r7@r7.1r.net](mailto:r7@r7.1r.net)

このコーナーでは、売りたい作品や買いたい中古品などのフリーマーケット的な投稿を募集しております。

投稿は、最初に売りたい・買いたい物の名前と種類(15文字以内)、次に内容・状態などをお書きください(150文字以内)。連絡先などを明記し、連絡者と直接交渉により品物とお金のやり取りを行ってください。

投稿先は「[reader@r7.1r.net](mailto:reader@r7.1r.net)」へ題名に

「Market-X係」と書いてお送り下さい。FAX・郵便での受付は今のところ行っておりません。皆さんからの投稿を、お待ちしております。

「inde-X」では次のような投稿をお待ちしております。

Boshu: メンバー・協力者などの募集  
Oshirase: ホームページやイベントの告知  
Market: 作品などの売り買い広告

各コーナーへの投稿は、メールにて「[reader@r7.1r.net](mailto:reader@r7.1r.net)」へコーナー名を題名に記入してお寄せ下さい。内容は、最初に題名(太字表記される部分)、次に説明をお書き下さい。

これ以外にも、音楽系だけのメッセージジャムコーナーが欲しいなどの新設要望もお受けします。

皆様からの投稿、お待ちしております。

## 投稿者募集

あなたの記事を書かせてみませんか？  
記事の内容やジャンルは一切問いません。  
あなたの書きたいことを、そのまま文章にしてください。  
掲載された方には謝礼をお支払いいたします。  
載せるかどうかは、あなた次第です。

ご質問・ご相談などは・・・ 編集室 ([edit@r7.1r.net](mailto:edit@r7.1r.net)) までお気軽にどうぞ。

Media Groove 編集室

## 君のサウンドは正しいか？

## 第0回「サウンドの世界へ・・・」

それは、とある土曜の昼下がり・・・  
レイン「おそいな～、カノン。どうしちゃたのかな～。」  
改札口をぬけて、こちらに近づいてくる男の子が見えた。  
レイン「おそいよ～、カノン。」  
声をかける、玲音。  
カノン「遅くなって、ごめん。待った？」  
レイン「心配したんだから。」  
カノン「ごめん。で、今日は何したい？」  
レイン「う～んと、カノンは？」  
カノン「見たい映画があるんだけど・・・」  
レイン「なにになに？」  
カノン「エピソード1」  
レイン「ふる～い。もっと新しいの、いっぱいあるのに～。」  
カノン「えっ、もう見ちゃった？」  
レイン「まだ、見てないけど・・・」  
カノン「じゃあいいじゃん。行こう？」  
レイン「うん。でもどこの映画館？」  
カノン「それは、雑誌を見て調べないとね。」

2人は本屋へと向かった。  
カノン「う～ん。エピソード1をやっている映画館が3つもあるな～。」  
レイン「どこが一番いいの？」  
カノン「どこって・・・。一番近いのはミラノ座だけど・・・。」  
レイン「このTHXとかドルビーデジタルとかって何？」  
カノン「よくわかんない。でも、客席数が一番多くて次の上映が近いのはここだから、ここにしよう？」  
レイン「そうなのかな～。」  
カノン「あっ、もうこんな時間。映画始まっちゃうよ。急ごう。」  
2人は少しずつではあるが、世界へ足を踏み入れようとしていた。  
カノン「楽しかった。オープニングのジャ～ンというところなんか背筋がゾクゾクしちゃった。」  
レイン「私はちょっと・・・。音に迫力がなかった気がする。」  
カノン「そうかな～。」

2人は、そんな話をしながら夕飯を食べに行き、楽しい時をすごした。

次の日、玲音が庭で本を読んでいると・・・  
八カセ「おお、レインちゃん。新しい映画を買ってきたんじゃが、一緒にみんか？ほれ、カノン君も誘って。」  
レインは、さっそくカノンを電話で呼んで、博士の家へ遊びに行った。  
レイン「なんていう映画なんですか？」

玲音(レイン): 好奇心旺盛な女の子。インディーズバンドに興味がある。

加納(カノン): レインの彼氏。意外にハンサムな男の子。映画が好き。

博士(八カセ): レインのお隣に住むおじいちゃん。家の中が研究所みたいなので博士と呼ばれている。

八カセ「レオンじゃよ。昔映画館で見たんじゃが、2年前に完全版がでてな。それがDVDで発売されていたんで、思わず買ってしまったんじゃ。」

レイン「ふ～ん。」

カノン「昨日は映画館で見たんだけど、家で見るのは・・・。アクションシーンとか迫力ないからな～。」

八カセ「大丈夫じゃ。最近、THX規格のデジタルプロセッサを買ったんじゃ。スピーカーも前からある2台と昔使ってた2台を使ってサラウンドにしておる。さらに、100インチのプロジェクターを使って見れば、映画館さながらじゃぞ。」

カノン「????」

レイン「ねえ、そのTHXって何？」

八カセ「なんじゃ、それも知らずに映画を見に行っていたのか？同じお金を払うならいい映画館を見たいじゃろ？」

レイン「うん！」

こうして、2人は第一歩を踏み出したのである。

次回(第1回)のテーマは

## 映画 (音の規格)

です。

このコラムでは、読者の素朴な疑問にお答えするコーナーを設置する予定です。

ご質問や意見をeditoraa@r7.1r.netまでどんどんお寄せください。お待ちしております。

# Media Groove 創刊記念 定期購読者プレゼント実施！！

Media Grooveは、次号から新しいスタートをきります。この試みが成功するかどうか、それは読者の皆さんにかかっています。その読者、より多くの方々に知っていただこうと思い、キャンペーンを実施いたします。

賞品：

A賞 図書券2000円分 5名様

B賞 ゲームソフト(中古) 5名様

Age of Empire、DOOM、Tower、信長の野望 Internet、開かれた前途

C賞 Adobe Acrobat 3.0 1名様

(どれか1つの賞にご応募できます。C賞はスタッフ・編集参加者のみご応募いただけます。)

応募資格：「Media Groove 速報」を購読されている方(この購読者を定期購読者と呼びます)ならどなたでもご応募できます。定期購読は無料で、ホームページ <http://r7.1r.net/MG/> より申し込みできます。

応募方法： 創刊号から3号までに掲載される記事やページを読んで、3号にあるアンケート用紙に必要事項を記入してください。アンケートでは、記事に関する意見などを求めるものがありますので、創刊号からしっかりとお読みください。  
尚、期間中に投稿やコーナーの企画、スタッフとして参加された方には、優遇措置を行います。

応募期間： 3号が配布されてから次の号が配布されるまでの期間

当選者発表： 3号の次の次の号で行います。

お問い合わせ： [reader@r7.1r.net](mailto:reader@r7.1r.net) まで

Editor in Chief :

相沢 裕貴

Writer & Editor :

青羊

Contributer :

長月 昴平

Other Stuff :

You

## 次号予告

楽しむための音知識

# 君のサウンドは正しいか？

第1回「映画(音の規格)」

インディーズ系作品ギャラリー

# Independent Works

読者の投稿掲示板



読者の感想や意見・イラストコーナー

## Reader's Voice

その他、あなたの企画・投稿したページ

内容は予告なしに変更されることがあります。

### Voice of Staff

創刊準備号はいかがでしたでしょうか。今回はスタッフが少ない、編集大変でした。編集・制作スタッフ急募です(笑)。でも、まじめに募集はしていますのでよろしくお願ひします。では、今号の制作にかかわったスタッフから

一言。(内は担当ページです。)

相沢裕貴(全般)：構想2年、制作1ヶ月(笑)。果たして今後この紙面が盛り上がりつついくのかどうか心配です。

青羊(全般)：本当に2年前から構想してたのかな。ハテ。きれいな紙面になるようにもってちよっかい出したいですねえ！わりと他力本願なモノだけど、うまくいくといいつつね。ねー。ねー？

長月昴平( )：創刊号発行です。いやあ、僕は何もしてないので

こんなところにしゃしゃり出てくるのもおこがましいんですが、めでたいことに変わりはありませんね。てなわけで、オーバーザライズン今後ともよろしく。

「Media Groover」では編集スタッフやライター、投稿者を募集しております。最近DTPをはじめたばかりで腕には自信がないという方でも大歓迎。私たちも素人ですので一緒に勉強しながら腕を磨いていきたいと思っています。興味のある方は左記までご連絡下さい。お待ちしております。

Published By



URL :

<http://r7.1r.net/MG/>

E-mail :

[mg@r7.1r.net](mailto:mg@r7.1r.net)

本誌掲載の写真・イラストおよび記事の一部または全部の無断転載・翻訳を禁止します。また、一部のみ再配布を禁じます。再配布は原本と同じ状態でのみ許可いたします。

(C)R7 project.